

カフェはれま(旧あびや旅館)オープン!

歴史的建造物がコミュニティの場に

御釜神社の向かいにある旧あびや旅館(元松亀園)がコミュニティカフェ「はれま」として、いよいよ1月中旬以降にオープンします。この建物は明治9年明治天皇が東北御巡幸の際、随行者の大隈重信など20数名の宿泊場所として使われた旅館(はたご)でした。震災の津波による浸水と老朽化で解体しようとしていましたが、NPOみなとしほがまが募金活動や金融機関からの融資で買い取り、保存と本格的な活用に向けて取り組んでいます。

NPOみなとしほがまのカフェ部会長である菊池千尋さんは「歴史ある建物の雰囲気ができるだけ壊さず、後世に引き継がれるよう保存をしながら、雲の「はれま」のように皆さんがひと息できて心が明るくなれる場所として利用してもらいたいですね。また、お土産用の地場産品や、カフェメニューとして地元スイーツも用意していますので、塩竈の魅力を感じてほしいです」と話してくれました。



▲菊池千尋さん
「紺色ののれんを目印に、気軽に立ち寄ってほしいです。」



▲改修前から年末年始や市内のイベントに合わせて催しを行っています

問 菊池 ☎090-4557-1671



▲オープンに向けて準備を進めています



1月中旬以降にオープンするのは1階(カフェスペース)のみで、2、3階は塩竈の歴史などの資料の展示やイベントスペースとして利用する、「まちかど博物館」としての準備を進めているそうです。

カフェでは月に1、2回小物などの手作り品の展示イベントを予定していますが、イベントに限らずひと息つきながら塩竈の歴史文化を直接感じてみてはいかがでしょうか。

景観コラム『景観十年、風景百年、風土千年』

壮大な計画で守られた「浦戸諸島の景観」

浦戸諸島の桂島海水浴場は、震災後、県内で海水浴ができる数少ない場所のひとつです。去年は約9千人の海水浴客が訪れ、明るい話題となりました。この海水浴場が、いつできたかご存じですか。

日本三景松島は、明治維新で仙台藩の保護を失い、松の乱伐や寺院の解体、山火事などで危機にひんしました。そこで県は、松島湾一帯を県営松島公園として、明治44年から5年かけて松など83万本を植林し、陸路・海路の交通路、観光施設などを整備しました。この中で明治44年7月に桂島海水浴場も開設され、写真のようにホテルが建つなど、大正3年には年間約6万人の海水浴客でにぎわいました。桂島海水浴場を含む県営松島公園に対する整備の取り組みが、やがて大正12年の名勝指定につながり、戦後の昭和27年には特別名勝に指定されて、景観の保護と島民の方々の生活・生業との

調和が図られています。

豊かな自然や歴史、島じかんを体感するため、浦戸諸島を訪れてみませんか。

【参考文献：松島町誌、松島町史(通史編Ⅱ)、浦戸の今昔Ⅰ・Ⅴ(塩竈市教育委員会)、松島公園経営報告書(宮城県内務部、宮城県図書館蔵)、特別名勝松島保存管理計画】



◀多くの人でにぎわっていた当時の桂島海水浴場



▶不如庵の南側中腹に建っていた旧桂島ホテル

問 都市計画課まちづくり推進係 ☎364-2510

防災行政無線で放送された内容を再確認したいときは、自動音声で放送内容を聞くことができます。

防災行政無線確認電話 ☎364-1260



エフエムベイエリア (FM78.1Mhz) でも防災行政無線の内容や防災情報を放送していますので、災害時にはラジオを活用ください。

【塩竈市の人口】 H27.11.30現在

住民基本台帳調べ (前月比)
人口 55,561人(-42人)
男 26,527人(-19人)
女 29,034人(-23人)
世帯数 23,018戸(-20戸)